

多世代が集える場づくり ～施設空きスペースを有効活用～



発見

発見資源：場（デイサービス事業所）

事業所に空きスペースがあり、デイサービス終了後の夕刻からは、施設全体が利用可能となる。

協議

内容：施設の想いと地域の現状（ニーズ）

施設「多くの住民に場として活用してもらいたい」

地域「学齢期を対象とした活動が少ない」

「地域が主体（中心）となって活動するのはしんどい」

活動内容：施設が主体となって開催する子ども食堂（学習と食事のある集いの場）

企画

コンセプト：こどもだけでなく、多世代が集まる場の創出する

ヒト（協力者）

学習支援を「元教員」や「大学生」が実施。準備や配膳などを「住民ボランティア」が実施

モノ（食材寄付）

お米や漬物などの食材を企業の善意を募り、寄付提供を受ける

コト（情報発信）

小学校と調整し、生徒へのチラシ配布と申込み受付が実現

**調整
コーディネート**

校区福祉委員会、民生委員会などへ複数回調整。他、大学のボランティアセンター、社協ボランティア相談コーナーと調整。

構築しているネットワークを駆使し、寄付が可能な企業や店舗へ主旨を説明し、地域貢献としての協力を依頼

施設長とともに小学校へ訪問し、校長先生へ主旨の説明と協力を依頼。結果、受付ポストの設置等の許可を得る

毎月1回 16:00～ 多世代が集まる「子ども食堂」を実施（主体：施設 協力：地域）

創出



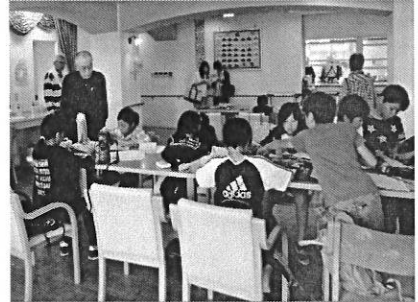
高齢者の社会参加

担い手となるボランティア（高齢者）が活動に参加することで社会参加となります。子どもから元気ももらえる！と好評。



高齢者の生きがい創出

参加者の子どもたちが、施設利用者向けにメッセージを書いています。見た高齢者からは笑顔がうまれています。



地域のつながりづくり

多世代が集まる場として、地域内の交流が深まっています。施設と地域の距離も縮まり、地域の拠点が1つできました。

校区内のシニアを元気に ～校区福祉委員会と社福法人がコラボ～

地域側：「校区内の高齢者を元気にしたい」

法人側：「地域に貢献していきたい」

発見

コーディネーターが双方の想いを聴き取り、話し合いの場面を設定

内容：それぞれの役割でできることは何か？

法人「専門職を地域会館へ派遣し、総合事業を活用した通所事業（短期集中通所サービス）」
地域「サロン活動のない町会への活動創出や、通所事業の受け皿づくり」

協議

活動内容：校区シニア元気プロジェクト

コンセプト：地域や法人などが一体的に介護予防の場をつくり、住民の社会参加を促進する

企画

主体者の調整

無理せずに現段階でできることを校区福祉委員会の役員と協議。喫茶との併設を企画。

校区福祉委員会の担い手は新規に対する負担感が大きかったため、既存の喫茶活動との併設を提案

関係者（応援）づくり

プロジェクトに対して協力してくれる組織や機関を調査・調整

保健センターへ主旨説明し、介護予防や自主グループについて情報交換を実施。

地域への理解促進

プロジェクトの主旨や、会館を使用した短期集中通所サービスなどの理解を得る

校区自治連合会定例会、校区福祉委員会定例会などで説明。法人によるサロン等での事業体験会などを実施。

**調整
コーディネート**

毎月2回 住民主体の体操教室
(主体:地域 協力:法人)

毎週1回 法人主体の短期集中通所
(主体:法人 協力:地域)

創出



住民の参加者が増加

喫茶のみの時より、参加者数が増加。体操を楽しみにしている住民も多く、喫茶との相乗効果が見受けれます。



担い手のスキルアップと活躍

ほてりあで学んだりハビリティ体操やコッカラ体操を男性シニアの担い手中心に実施。住民からも好評です。



介護予防の促進

専門職による指導のもと、体操習慣が身につく、身体機能の向上や地域活動への参加につながった事例が複数あります。